

## 抄 録

## 第13回 信州脳神経外科研究会

日 時：平成28年10月28日（金）

場 所：信州大学医学部附属病院外来棟 4階研修室 4・5

## 講演 I

経鼻内視鏡手術におけるマルチモダリティー  
を用いた術前術中シミュレーションの有用性  
信州大学脳神経外科

○萩原 利浩, Alhusain Nagm

後藤 哲哉, 西川 明宏, 山本 泰永  
堀内 哲吉, 本郷 一博

低侵襲手術が推奨される現代脳神経外科医療の中で、その代表的なものとして傍鞍部腫瘍に対する内視鏡下経鼻手術が確立された。近年の神経内視鏡手術手技の進歩や手術機器の開発に伴い、その手術適応が拡大されつつある一方、それに伴い、手術難易度や合併症率、侵襲性の増加が懸念される。そのような時代の流れの中で経鼻手術を、いかに安全かつ確実にそして低侵襲性を維持しながら手術を行うかが今後の課題である。当科においても、適応が拡大しつつある内視鏡下経鼻手術を安全に遂行するために様々なモダリティーを用いて、術前および術中のシミュレーションを行っている。術前画像からの3Dモデルの作成、3D内視鏡やICG内視鏡の使用、電気生理学的モニタリング、術者支援ロボット iArmS の活用などがそれである。現在当科で行っている経鼻内視鏡手術におけるマルチモダリティーを用いた術前術中シミュレーションの現状と課題について概説する。

## 講演 II

当院における心原性脳塞栓症に対する抗凝  
固療法の現状

伊那中央病院脳神経外科

○佐々木哲郎, 鈴木 陽太, 佐藤 篤  
同 神経内科  
池田 淳司, 永松清志郎, 清水 雄策

心原性脳塞栓症および脳出血の症例（2011～2015年）において、発症前の抗凝固療法について検討した。心原性脳塞栓症は334例で、4分の3が75歳以上の後期高齢者であった。発症前の抗凝固療法は29%であり、ワルファリンが62例、直接経口抗凝固薬（DOAC）が35例であった。ワルファリン内服患者の半数以上（38例）が under-dose であり、DOAC 内服患者では under-dose が6例、アドヒアランス不良が6例であった。コントロール良好な状態で脳塞栓症を発症した症例は、ワルファリンが24例、DOAC が21例であり、イベント抑制効果は同等と考えられた。脳出血（器質性疾患を除く）は371例で、発症前の抗凝固療法はワルファリンが37例、DOAC が9例であった。同期間における当院の処方比率が両群でほぼ同等であったことから、DOAC はワルファリンに比べて脳出血の合併が少ないと考えられた。高齢化社会にともなって心房細動の有病率が上昇し、抗凝固療法を必要とする症例が増加する一方で、高齢者ほど出血性合併症のリスクは高まる。経口抗凝固薬の有効性や安全性、薬剤特性や薬物相互作用、アドヒアランス等を考慮した、より適正な抗凝固療法を選択する必要がある。

## 特別講演

座長：信州大学医学部脳神経外科学教室教授

本郷 一博

「傍鞍部・前頭蓋底腫瘍の手術戦略」

東京女子医科大学脳神経外科学講座教授・講座主任

川俣 貴一

---

 会 報
 

---

## 平成29年信州医学会総会議事録

日 時：2017年3月3日(木), 15:00~15:40

場 所：信州大学医学部第二会議室

開会の辞 石塚 修  
 会長の挨拶 田中榮司  
 議長選出 石塚 修(泌尿器科学)に決定

## 議 事

- 1 平成29年・30年運営委員選挙結果報告  
 次の諸氏が選出された。

## 〈運営委員〉

石塚 修, 稲葉雄二, 梅村武司  
 岡田健次, 駒津光久, 中山 淳

以上, 承認された。

- 2 平成29年運営委員会・編集委員会構成の承認

## 〈運営委員会〉

委員長 石塚 修  
 副委員長 岡田健次  
 委 員

伊藤研一, 稲葉雄二, 梅村武司  
 菅野祐幸, 小泉知展, 駒津光久  
 中山 淳, 花岡正幸, 藤本圭作  
 森田 洋, 鷺塚伸介

## 〈編集委員会〉

委員長 梅村武司  
 副委員長

石塚 修, 伊藤研一, 岡田健次  
 菅野祐幸, 小泉知展, 駒津光久  
 中山 淳, 花岡正幸, 藤本圭作  
 鷺塚伸介

## 委 員

浅村英樹, 池田修一, 伊澤 淳  
 市川元基, 稲葉雄二, 今村 浩  
 大森 栄, 奥村伸生, 小柳清光  
 加藤博之, 川 茂幸, 栗田 浩  
 齋藤直人, 坂口けさみ, 沢村達也  
 塩沢丹里, 鈴木龍雄, 関口健二  
 竹下敏一, 多田 剛, 寺田信生  
 中沢洋三, 能勢 博, 野見山哲生

樋口京一, 深澤佳代子, 福嶋義光  
 本郷一博, 本田孝行, 間宮敬子  
 宮川眞一, 森田 洋, 山田光則  
 山田充彦, 吉田邦広

## 〈会務部〉

藤本圭作(部長), 鷺塚伸介(副部長)

## 〈監 事〉

栗田 浩, 塩沢丹里

以上, 承認された。

- 3 平成28年事業報告

今村28年編集委員長より下記の報告があった。

「信州医学雑誌第64巻1号から6号まで順調に発行でき, 綜説6編, 原著論文9編(内英文5編), 症例報告10編(内英文6編)が掲載され総頁数は399頁であった。投稿論文は22編(内英文11編, 依頼綜説は除く)あり英文論文の投稿・掲載が増えてきている」

- 4 平成28年決算報告

事務部より別紙・決算書に基づき説明があり, 承認された。

- 5 平成28年監査報告

栗田・塩沢監事欠席につき事務部から下記の報告があった。

「本年1月16日, 平成28年1月1日から12月31日までの会計監査を多田28年運営委員長立ち会いのもと両監事が行い, 帳簿, 書類, 通帳, その他正しく整理されており適正に処理されていたとの監査結果でした」

以上, 承認された。

- 6 平成29年事業計画

梅村編集委員長より, 下記の説明があった。

「本年も6号刊行予定であり, 65巻1号は既刊, 2号は現在校正中であり, 3号以降は準備中であり順調に推移している。現在投稿が少ないので待っている状況である」

- 7 平成28年予算計画

藤本会務部長より別紙・予算書に基づき説明があり承認された。

- 8 第16回信州医学会賞授与式

田中会長より授与された。

## 原著論文部門

原田 真 他(内科学第二教室)

『The Optimal Cut-off Value of Ankle Brachial Index for Screening Cardiovascular Disease Risk in Hemodialysis Patients』

(信州医誌 64 : 135-146, 2016)

症例報告部門

柳澤 新 他 (画像医学教室)

『Usefulness of F-18 FDG PET/CT in a Case of Relapsing Polychondritis』

(信州医誌 64 : 349-355, 2016)

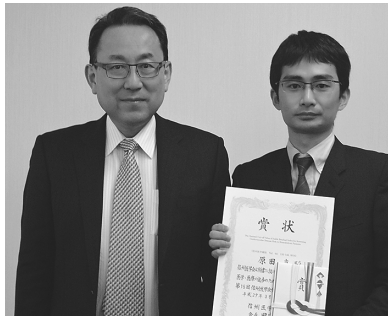
9 その他

\* 第1回運営委員会 (平成29年1月26日) で名誉会員に推薦された3名を承認した。3名には名誉会員希望の意向をうかがう。

\* 信州医学会賞開票結果で同票の場合の対応について、本年の運営委員会で審議する。

閉会の辞 石塚 修

以上



第16回信州医学会賞授与者  
会長より授与された原田先生 (左), 柳澤先生 (右)